

従業員のがんばりに感謝—維持してゆきたいこの記録

# 売上高1億1千5百万円好調スタート

(株)：セラアグリパーク6月末決算期  
—議会に報告—

来期目標売上高  
—2億4千万円—

## 9月定例会

9月7日～9月28日  
会期22日間

9月定例議会は9月7日招集し、28日までの22日間の会期で開催されました。  
議案は、人事案件4件、報告1件、工事請負契約2件、工事金額の変更1件、町道路線の認定4件、それに伴う町道の廃止1件、路線変更3件、町条例の一部改正5件、その他、H18年度一般会計他7会計の補正予算、H17年度一般会計外8会計の決算認定が提出さ

れ、決算認定案件は、特別委員会を設置、慎重な審議の中、いつもひきだされる厳しい財政事情の現状、加えて国が打ち出した借金の比率を示す新しい財政指標「実質公債費比率」、そして負債が標準的な収入の何倍に相当するのかを表わす「将来負担比率」など、新しい指標の登場の結果世羅町は実質公債費比率は19・8%と公表され、18%を超える起債は、知事の許可が必要となる。  
そんな現実的な問題が発生した本定例会中、財源を求めて論戦することもしばしばあつて財政の不透明さに集中、行政も終始同じ答弁を繰り返す。遂に予備日もつかつて集中審議する事となりました。  
主な議案の概要、審議の内容を紹介し

### (株)セラアグリパーク 黒字決算

(株)セラアグリパークは、6月末で第4期をむかえた。今年4月13日に「セラ夢公園」がオープンし、当初年間21万人の来園を計画していたが、3ヶ月で20万人を記録した。売り上げも約1億1500万円、当期純利益約560万円となった。

今年度は、売り上げ約2億4千万円、経常利益約4200万円を目指す。

### Q オープンして、3ヶ月だが、来場者は年間計画に匹敵する数字を出している。参加企業のアグリパークへの維持費負担はどうなっているか。

オープンして、3ヶ月だが、来場者は年間計画に匹敵する数字を出している。参加企業のアグリパークへの維持費負担はどうなっているか。

### A 通年であれば売り上げが上がり、3ヶ月弱であり、12分

なくとも一定額の負担をするようになっていくが、オープンして3ヶ月弱であり、12分

の3程度の負担になっている。

### 世羅町第1次長期総合計画の基本構想を審議

世羅町の将来像（H18年～H27年10年間）を描いた基本計画が示された。



年間来園計画を突破した「セラ夢公園」

### 西世羅地区水道施設工事を(株)大宝組が落札 (1億6150万円)

目谷ダムの水を利用して、徳市、黒瀨、黒川、上津田方面に飲料水を供給する。

今回、ふれあいロードに沿って、グリーンパーク弘楽園付近から黒川までの約4kmの間に送配水管を埋設される。



着々と進む 飲料水供給工事(黒瀨地区)

●国がすすめる目谷地区の水管制御施設が増額補正(3798万円)され前倒しで完成を目指す。

# 行政を進める唯一の第3セクター「せら夢公園」

## 3ヶ月で20万人集客！

大自然の“せら夢公園”まちの活性化に大きな貢献、膨らむ期待

中央監視設備工事を  
隔測計装(株)が落札  
(4600万円)

現在、専用回線で各施設の監視をしているが、今後は上下水道課と小国、賀茂、大見、津久志、水の別浄水場をシーケンサー装置で結び集中監視することになる。

**Q** このシステムの導入によって、経費の削減につながるか。

**A** 人件費の削減にはつながらない。むしろ、安全管理に寄与すると考える。

**Q** 監視は必要と思いが、財政の厳しいなか我慢する部分も必要ではないか。

**A** 合併によって広範囲の管理になったため、合併推進交付金で対応したい。



改修を待つ 現在の監視盤

### 町道路線の認定

H17年に行った道路改良工事に伴い、新規認定4件、重用部分の廃止1件、延長変更認定3件、計8路線を新たに認定した。

**Q** 町道認定から廃止となった道についての対応は。

**A** 廃止となった町道でも、農道として利用価値がある路線については、農道として認定する。

### 出産育児一時金を増額

健康保険法の改正によってH18年10月1日から出産育児一時金を30万円から35万円に増額した。

**Q** 予算への影響は。

**A** 年度当初、16人で480万円を予定していた。現時点で9人の出生届があった。

世羅町コミュニティ施設設置(6施設)から白鹿荘を除く

宇津戸地区の白鹿荘を地元コミュニティ推進協議会へ無償譲渡する。今後は地元の方で管理、運営をしてもらうこととした。

**Q** 白鹿荘以外の施設の、今後の扱いは。

**A** 使用ができる最低限を町で補修し譲渡を基本的姿勢としている。順次地元と協議、納得のいく形で譲渡していきたい。



地元管理となる白鹿荘

### 人事

#### ◎人権擁護委員

H18年6月30日をもって真澄瑛智氏が解嘱となったので、後任に成安信昭氏(川尻)を適任としました。

H18年12月31日をもって田中一裕氏が任期満了となったので、後任に森光邦氏(安田)を適任としました。

#### ◎教育委員会委員

H18年11月17日をもって廣山一子氏が任期満了となったので、引き続き同氏(徳市)を同意しました。

#### ◎世羅町固定資産

##### 評価審査委員

H18年10月1日からH21年9月30日まで、川北國夫氏(黒川)を同意しました。

# 6千万円、後年度へ負債繰越。

## 付帯意見

- ①財政硬直化の中で、経常経費の節減に努めるとともに、施策の緊急性、優先度を精査し執行されたい。
- ②各団体への負担金・補助金等については、従来の慣習にとらわれず、十分精査を行い執行されたい。
- ③歳入において、収入未済の収納に相当の努力は認めるが、税負担の公平公正を図るため、更なる努力をされたい。
- ④決算審査の過程において指摘した事項については、十分留意し今後の行政執行に反映されたい。

### 付帯意見をつけて決算を認める

#### ●決算審議

決算審議は特別委員会を設置し、4日間開催、財政状況をみると、能力を示す財政力指数は、0・307で昨年よりはわずかであるが上回っている。しかし財政の弾力性を示す経常収支比率は90・6%しかも公債費比率も21・2%、昨年より0・6ポイント下がったとはいえ、財政硬直化は依然として高い数値を示している。それに町債いわゆる借金も2百16億6千万円、昨年よりは2億8千万円余りの減少しか達成していない気の遠くなるけた違いの借金、後年度負担は許せない。公営企業会計の上水道事業会計は、収支比率の向上に努力しているが借金資本金も増大。企業債残高はさらに増大している。下水道事

業も同様の事がいえる。公営企業会計の「経営の基本原則」に徹した運営に今後努力してゆく事が望まれる。一般会計決算は百21億円で当初計画値より5億8千万円余り増額となっている。特に農林水産業費と衛生費は当初計画より大きく増額をし、国の福祉予算の減額に沿って本町も福祉・教育関係の減額が表われている。繰越明許費が大きいので、H17年度は旧町単位の事業であって、殆んど事業はしていない。

以上、一般会計外8会計の決算を慎重審議した結果、各会計共原案通り付帯意見をつけました。主な審議内容を示します。

### 増える町債

**Q** 簡易水道・公共下水道会計への支出は適切か。

**A** 一般会計で、過疎債を借り入れて水道・下水道会計に繰り出しを行った。これは制度のうえで、本来は簡易水道債等を借りて実施すべきだが、交付税措置もある過疎債で対応してきた。

### 有害鳥獣駆除の効果は

**Q** 猪や鹿には行政区の線引きがない広域的連携対応が必要でないか。

**A** 合併直前に他市町との連携ではH17年当初から、府中市とは協定を結んでいる。その地区では一定の効果が出ていると評価している。

### 住民自治はどう進めた

**Q** 住民自治拠点づくりはできたか。

**A** H17年度も一定の算式に基づき、公民館エリア12団体、中組織117団体へ交付している。これからは、協働した町づくりが必要となる。地域へ出向いて役員とも組織化などの話をしてきた。リーダー研修に力を入れた。

### 保育所運営は

**Q** 旧町での運営方法が新町で統一された効果は。

**A** 可能な限りH17年統一、H18年そろえるというところで取り組んだ。節約できるところは節約し、旧世羅の運営方法で統一している。

# わたしたちの税金、121億800万円 どう使われたか、町債216億

**減額・不用額でも教育現場は大丈夫か**

**Q** 多額の予算減額・不用額となっているが、これで教育現場は大丈夫か。

**A** 経費削減努力・パソコンソフト

等の入札残・町費対応を、できるものは県費で・中学校費の中では、遠距離通学の対象者の自転車通学が増えたことなどである。

**未利用財産の有効活用は**

**Q** H18年度も、ブルーベリーの施設ということで売却があったが進みが遅いのでは。

**A** 広報誌などで未利用財産の有効活用を進めたいということに掲載している。町民に広く知ってもらうことで、町民から、町外に出ている人に情報が伝わることも期待

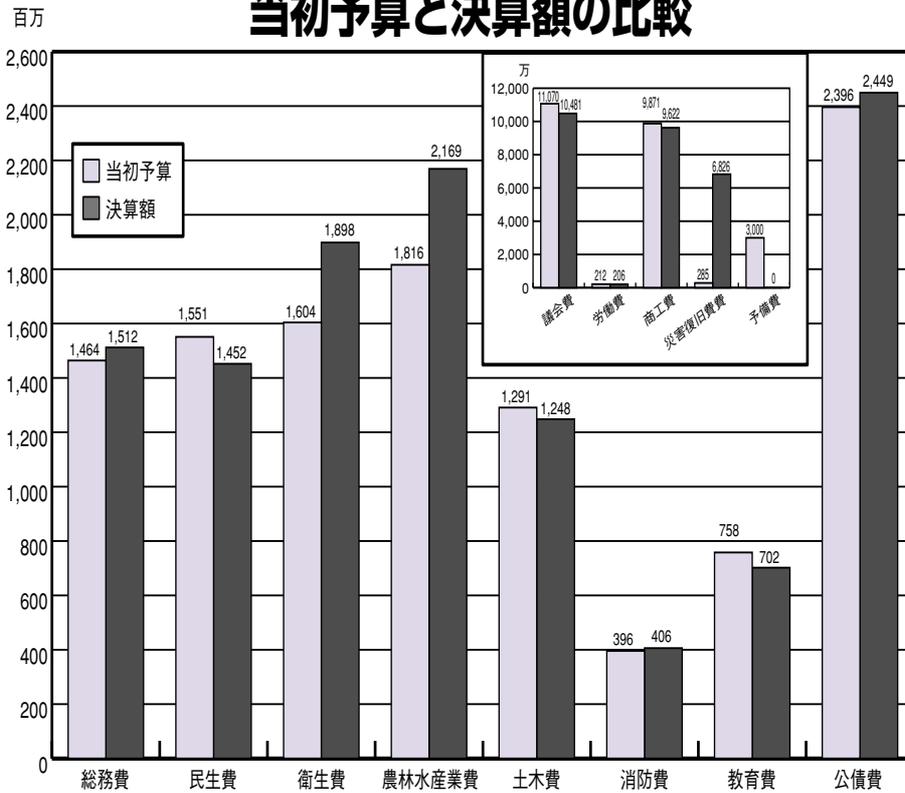
している。山林についても売却を中心に取り組んでいる。

**町税・国保税の滞納対策は**

**Q** 町税・国保税に多額の収入未済が生じているが対応は。

**A** 滞納を減らすことには収納の一番の大きな課題として取り組んでいる。どういう方法で収納していただけるか面談で相談していただいている。払えるのに払ってない人については公平性のうえからも

## 当初予算と決算額の比較



**A** その都度補正の審議をいただきたい。予算執行してきたので、当初予算を組み、以後の補正で執行できないものは減額して、担当部署毎に個々に表現してきている結果である。今後は集中と選択がわかるような予算補正をしてゆきたい。

**Q** 当初H17年度の全体予算は苦しいスタートであったが、繰越明許費が発生したりしながら10回の補正がされ衛生費、公債費、総務費そして上下水道費、簡易水道費に増額をしながら、一方で福祉費、教育費を減額してきた。決算報告をみる中での整合性をどのように思っているのか。

**減額、増額補正の整合性は、**  
厳しく徴収していく。差し押さえを含む滞納処分を徹底したい。